

工場委員會を設置して、労働争議を防止せんとの案

百名の資本家工場主等協議す

大田の手帳に來頼する各工事の
野瀬謹にがて大阪市役所及び警察
河川の資本工事主任を有名士十
六日午後四時から市内北豊島屋
河の大田工事監修上に各工事々
監修を受し直見の交換をした
目下監修中の横水田送水所よりは
前野井氏在住佐野町のよりは
會を設置しては如何なる工事も其
つたが若松橋まつた決議を見ず
何れ近々工業會から具體的に立葉
し名工事主任に聞る事になり七月十
分会員に以て出の事を通知
した結果者限では是れは資本家
の圖示して野瀬君に管するにあらず
やこ反愛會木村工事代理は之れが
野瀬上りて全国の各工事監修にて
ばばにして其の同門を求ひべく新橋
を走り車送する後樓である

佐友電線所・同製錬所・藤木田菫松所同額 電線所木口の回答

男女職工の賃金 代表職工の職首を覺悟して

タ被爆者、十六日朝改めて被爆者を報告するところに先に被災状況聴取を早めにした生友会所職工は午後当時牛原町に軍から何れも作業服を着て場外に出でて四五年の女工も出で手を洗ふことをせざらるや。春秋したとして男工に加はり職員に多感動を感嘆し現るが内に被爆の状態ごとなつたが六時半から朝日機械製造の講習館にて後六時半から朝日機械製造の講習館にて後半時牛の退所時刻となり一同本隊に福島県議会に向つた。

山内の復讐を期す

本日全職工調印して

更に歎願書を提出せん
た。一方有貢の職業をもつて居る工は直に食料不足で減額を受ける事の爲めに職業の自由を確保するため先づ山内への復帰のために起つ事を申合せ五年五十分間事実としたそれをより實に委員會其他幹部等約七十名が山内は四員員長町から東方に移行命令以後の問題に於ては随處の結果を示す所である結果十七日全職員の請印を提出した上工の請印を経め、二、を求むる歎願書の解雇の取消しを十七日朝刊新聞の如き五項よりなる要求内容の教育監督二種類を同時に上面に提出し右の二)なる

中国图书馆分类法(第2版)·自然科学·P64

の譲りををして與へたもので、らしされに新潟市に移る。
しかし要我諒になつて現はれたに絶縁した。山口
工場の内藤吉の依頼並に新潟の蔵前醸造所にて新潟市に
在り時を貰ねたが、
機械工場の要求条件に對し、これは、

孰に就く？職長會

電線所の職長と組合

土友金穂道所長及相長十名等は、
は、職工の第一回の出席費を提出

じた十四日午後二時懇親會の名に
より會員同士懇親工房の仲業者た
る報告演説

（つづき）中出でたが職工季風は専誠
（つづき）結果は不慎重く中出でたが専誠

傍聴者は職工其他を含めて主として主

はつてゐた。市倉在信ははの賄金の結

賀行委員の土井、河原二君の報告も終り、二時四十分頃、大矢委員も登場し、二十時四十五分頃、議論は終了した。

後半時に至り勞軍歌を高唱
無事公演したが客員二十名
に四百円の手数料の井物頭で更に

今後の態度は近日わざてゆる おまかせをまことに

金元は拒绝に決した

兩所共解決容易ならず

の譲歩をして與へたものであら。これが以前に審議する必

内工場の問題並に取締の成員獻工山内徳吉の質問回答等について審議
めなしきの意見に決したものと
く、又山内内の役職は十六日付

工場の要求案件に對しては第6回で既に绝对不能の回答を既に得てゐるから更に協議するに

一日の回答が既に算計が最大限度ないシレ／最初の方針